

今日から10月後半戦スタート！

10月2日（月）

いよいよ本日より後半戦が始まりました。「〇〇の秋」と言われるように、何をするにも好季節となりました。勉強に、運動に、生徒たちの可能性を最大限に引き出せるよう、後半も教職員一丸となって取り組みます。保護者の皆様のご支援、ご協力を引き続きよろしくお願い致します。

～ここから新聞記事～ 小学生の頃、学校に行きにくかったという大学生が、私のコーチング講座に参加してくれたことがありました。最終的に、学校生活に戻ることができたそうですが、それは、親がそっとしておいてくれたからだと言います。しかし、学校に行きにくくなった当初は、そうではありませんでした。「もし、自分で言いにくいことがあるのなら、先生や友達に親から話してあげよ」とか、「この本を読んだら、元気になって学校に行けるかもしれないよ」などと言われると、そのたびに、「自分はダメな子どもなんだ」と落ち込んだそうです。「こうしたら?」、「こうしなさい」と言われることで、よけいに、どうしたらいいのか混乱していったと言います。よかれと思って、手や口を出してきたことが、子どもの「考える力」や「自己肯定感」を奪っているとしたら、それはとても罪深いことです。一方で、「すばらしく意欲的だな!」と感じる大学生にも、折々に出会います。コミュニケーション力が高く、自分の考えをハキハキと話します。考え方も非常に前向きで、落ち込むことはめったにないと言います。いったい、どんなご家庭だったのか?と、つい、聞いてみたくになります。そこで、質問すると、こういう若者から、必ず返ってくる答えがあります。「『勉強しなさい』と言われたことは一度もないです」。これはもう、判で押したように共通しています。だからと言って、「勉強しなかった」という人は一人もいません。自分で計画を立て、自発的に勉強してきたという人ばかりです。とりわけ、明朗でプラス思考の学生Aさんのこの言葉は印象的です。「うちの親は、『あなたはどうしたい?』といつも聞いてきました。『友達が塾に行くから、私も行ったほうがいいのか?』と聞いたら、逆に、『あなたはどうしたい?』と聞くし、小学生の頃、学校に着ていく服も、1年生の頃から、『あなたはどうしたい?』と私に選ばせていました」子どもの頃から、自分で考え、自分で決めて、行動してきた人は、気持ちよいほど、前向きです。「自分で考え、自分でできた」体験を積み重ねていますので、何か困難なことに出合っても、「きつと、自分ならなんとか乗り越えられる」と考えます。これは、すばらしい「自己肯定感」です。朝、自分で起きること、着て行く服を選ぶこと、持ち物を確認することなど、これまで、何かと手をかけてきたことがあれば、一度、子どもに任せてみることをお勧めします。「もうあなただったらできそうだから、今日からは自分でお願いね!」と手を放してみると、意外とできたりします。「任せる」ことは、相手の力を信じていないとなかなかできないことです。ですから、「任せる」ことは「あなたを信じているよ」という想いを行動で示すことと言ってもよいでしょう。任されてこそ、相手は自分で考えようとし、し、「私は信頼されている」という自己肯定感を持てるのです。